

原子力発電所に関する説明会（3月21日）開催後の追加質問に対する
関西電力株式会社の回答

質問 No. 1

12/4 大阪地裁判決に対し、ばらつきは不確かさの中に含まれ、FoA-FoB-熊川断層までの長さ、深さも3kmと広くとり保守的に策定した、という説明でしたが、美浜原発や高浜原発でこのような保守的に見ている内容は何か。関電に答えて頂いても結構です。

（回答）

美浜発電所や高浜発電所についても、大飯発電所と同様に、敷地周辺の活断層に関する詳細な調査を行い、断層長さや断層の幅を広くとるなど断層面積を大きく設定したうえで、短周期の地震動レベルや、断層傾斜角、破壊伝播速度など、地震動評価に大きな影響を与えると考えられるパラメータについて不確かさを考慮した多数のケースについて地震動評価を実施し、十分な大きさの基準地震動を策定しています。

なお、上記のとおり策定した基準地震動は、原子力規制委員会の安全審査を受けております。

（美浜3号機 基準地震動に係る当社審査資料）

<https://warp.da.ndl.go.jp/info:ndl.jp/pid/11285463/www.nsr.go.jp/data/000150450.pdf>

（美浜3号機 設置許可審査書）

<https://www.nsr.go.jp/data/000165965.pdf>

（高浜1, 2号機 基準地震動に係る当社審査資料）

<https://warp.da.ndl.go.jp/info:ndl.jp/pid/10338561/www.nsr.go.jp/data/000035888.pdf>

（高浜1, 2号機設置許可審査書）

<https://warp.da.ndl.go.jp/info:ndl.jp/pid/10338561/www.nsr.go.jp/data/000096119.pdf>

【いずれも原子力規制委員会ホームページに掲載】

質問 No. 2

21日の説明会で、発電時以外の二酸化炭素の排出量も、原子力は他の発電方法に比べて勝っていると回答なさっています。処分方法も決まっていない状況でどのような算出方法で、そのような結果を出されたのでしょうか？具体的な算出方法を教えてください。

(回答)

○原子力発電の二酸化炭素の排出量については、電力中央研究所が2016年に発電技術のライフサイクルCO₂排出量の評価をまとめており、その中で原料の採掘や発電所の建設・燃料輸送時に加え、使用済燃料の再処理・プルサーマル利用・高レベル放射性廃棄物処分、発電所廃炉等が算定されています。